企画展 能面の継承

2024 11.7【木】▼12.1【日】

能面 黒癒見 是閑作
［江戸時代 宝生会］

能面 泣増 伝増阿弥作
［室町時代 宝生会］

観阿弥・世阿弥親子が能楽を大成させた室町時代以降、能面は舞台演出の中心として魅力的に見えるよう数多の面打ち師によって創意工夫がなされました。江戸時代に円熟期を迎えた能楽は、庇護する大名の意向もあり、芸の型を学び「写す」ことが中心となります。能面も特に優れたものを「本面」とし、造形、彩色、傷跡、雰囲気その全てを写しとれるよう制作することが面打ち師の本分となり、その精神性は現代まで継承されています。

今期は宝生会所蔵の優れた能面を軸として、「加賀宝生」の地に残る加賀藩前田家ゆかりの写し面、現代能面作家後藤祐自の写し面を揃えて展示いたします。

また伝説の面打ち師、赤鶴が制作した浮木般若の特徴を伝える希少な写し面を三面一堂に展示いたします。

時代を超えて守り継がれる能面を通して、作家個々の感性と様式美の両面を感じていただく機会となれば幸いです。

企画展 能面コレクション 寿！ －KOTOBUKI－

2024 12.13【金】▼2025 3.9【日】

江戸時代、加賀百万石の大名前田家のもと高度な武家文化が花開いた金沢。なかでも能楽は武士の嗜みとして手厚く保護育成され、のちに「加賀宝生」と称されるほど広く浸透しました。明治維新による幕藩体制の終焉は一時の衰退をもたらしましたが、加賀宝生中興の祖・佐野吉之助をはじめとする能楽愛好者らの尽力により、「謡が降る街、金沢」の伝統が受け継がれました。

当館は加賀宝生に伝わった能道具をコレクションの母体とし、以来、能楽に関する貴重な資料の収集・保存・展示を重ねています。

このたびは新たに寄贈される品を含め、所蔵品のなかから高砂や翁など寿の演目を描いた能画を中心に展示いたします。

能楽絵集（部分）
［明治27年 金沢能楽美術館］

高砂演能図屏風（部分）［江戸時代 金沢能楽美術館］

新春特別イベント 御松囃子 要予約

加賀藩時代、年始に金沢城内へ藩主や家臣が集い、お抱えの能楽師が「謡初め」を行った式を金沢能楽会の協賛のもと復活しています。祝意溢れる謡の声で、清々しい新年をお迎えください。

日時 2025年1月4日（土）13:30～16:00　会場 3階研修室

参加料 無料、ただし要観覧料　定員 100名

ギャラリートーク 能面の写しと修復

宝生会所蔵の能面修復などに携わる現代能面作家、後藤祐自氏に解説いただきます。

日時 2024年11月10日（日）14:00～15:00

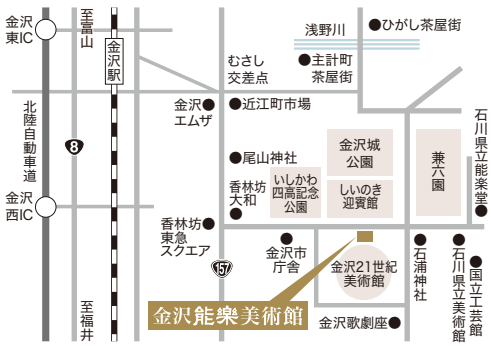
会場 2階展示室　参加料 無料、ただし要観覧料

Kanazawa **Noh** Museum

金沢能樂美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25　TEL(076)220-2790　FAX(076)220-2791

https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp

金沢能楽美術館 検索　https://www.facebook.com/kanazawa.noh.museum

金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルより乗車、「広坂・21世紀美術館」または「香林坊（アトリオ前）」下車